

らんびき

R A N B I K I 2026



(ラベンダー)

長谷川留学生奨学財団 設立の趣旨	3
トピック ホームページリニューアルのお知らせ	4
2025年度 財団事業活動とイベント	5
2025年度 イベント紹介	
• 第22期 奨学生認定証授与式	6
• 国会議事堂見学	8
• 歌舞伎鑑賞教室	8
• 交流会	9
• 日本文化体験ツアー	12
• 長谷川香料見学会	14
• 大相撲初場所観戦	15
• 第21回 修了式	16
公益財団法人 長谷川留学生奨学財団のご案内	20
奨学生状況	21
2025年度 役員・評議員・選考委員	21

本誌には個人情報に関する事項が記載されています。お取り扱いにはご注意ください。
本誌についてお気づきの点がございましたら下記までご連絡ください。

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-3-6 ワカ末ビル7階
公益財団法人 長谷川留学生奨学財団
office@hasegawa-zaidan.or.jp

表紙の言葉「ラベンダー」

ラベンダーはシソ科の木本性の植物で、様々な品種の総称です。原産地はヨーロッパですが、今では日本の各地で栽培されています。
爽やかでフローラルでハーバルな心地よい香りが特徴のラベンダー。香りの主成分であるリナロールや酢酸リナリルには鎮静効果があることが知られています。ラベンダーの花を乾燥させてサシェにして枕の下に入れてみてください。リラックスして、きっと素敵な夢を見ることができますよ。



設立者

はせがわ たみこ
長谷川 多美子

設立の趣旨

長谷川香料株式会社の代表取締役会長であった長谷川正三は香料の製造・販売活動を拡充するため、世界各国、とりわけ東南アジア諸国との取引を重視し、中国、韓国、台湾、シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン等に支店、子会社、総代理店等を置くなどして、活発な営業活動を展開し、生活の高度化に伴い、より豊かで潤いのある生活を求め、香料の普及に寄与してまいりました。

同人は2001年7月7日他界しましたが、妻である長谷川多美子や会社幹部に、日本はアジア諸国と協調していかなければならない。そのためには民間外交、特に次世代を担う若い世代の育成と交流が重要である、と語っておりました。

故長谷川正三は2003年の香料事業創業100周年を記念してこの夢を実現するため、自らの資産を提供して、留学生援助のための財団を設立したい、との強い希望を抱いておりました。その実現を見ずにこの世を去りました。私長谷川多美子及び会社幹部は故人の遺志を継いで、ここに奨学金援助のための財団法人を設立することと致しました。

この奨学援助金により、一人でも多くの留学生の経済的な負担を軽減することによって、日本の風土、文化、歴史、化学技術などの勉強への専念を容易にし、社会に有用な人材の育成を図り、アジア地域、広くは国際社会の発展に寄与する事を念願するものです。

2003年10月10日 設立

この度、長谷川留学生奨学財団ホームページを全面リニューアルいたしました。
今回のリニューアルでは、より多くの方に財団の活動をお伝えし、楽しんでいただけるように、デザインや記事・構成を見直しました。

- 財団の奨学金給付活動についてわかりやすくお知らせします。
- 財団の1年間の活動を写真や奨学生の言葉で紹介します。
- 財団での経験が今の自分にどう生きているか、現役奨学生、修了生のリアルな声をお届けします。
- 公益財団法人としての情報公開に努め、財団運営の透明性を高めます。
- 奨学生・修了生の専用ページでは、イベントでの写真を公開したり、奨学生・修了生同士で意見交換できるフォーラムを設けるなど、奨学期間中だけでなく、期間が終わってもいつでも帰ってこられる場をご用意します。

これからもより使いやすいサイトを目指してまいりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



奨学生・修了生の皆さん ID、パスワードの請求は財団までメールにてご連絡ください。
office@hasegawa-zaidan.or.jp

- 2025年 4月 ~ 2026年 3月 2025年度奨学生70名に対し、奨学金を給付しました。
- 2025年 4月 ~ 2026年 3月 第2期上級奨学生を4名採用し、第1期・第2期上級奨学生6名に奨学金を給付しました。
- 2025年 4月 第22期奨学生47名の認定証授与式を開催しました。
- 2025年 5月 財団機関誌「らんびき 2024年度、2025年度合併号」を発行し、奨学生を中心に配布しました。
- 2025年 5月 社会見学として、国会議事堂見学を行いました。
- 2025年 6月 日本の伝統芸能に親しむ目的で歌舞伎鑑賞教室を開催しました。
- 2025年 7月 奨学生と財団役員及び選考委員との交流会を開催しました。
- 2025年 10月 日本の文化に触れ、又奨学生相互の交流を深めるためのイベントを開催しました。
- 2025年 10月 第23期奨学生募集のため募集要項を都内の大学に送付し、推薦の依頼を行いました。
- 2025年 11月 社会見学として、長谷川香料株式会社の業務内容を理解してもらうため、総合研究所を見学しました。
- 2026年 1月 日本の伝統と文化に触れてもらうため、大相撲を観戦しました。
- 2025年 12月 ~ 2026年 1月 奨学生選考委員により、書類及び面接審査を行い、56名の候補者を選出し、2026年3月開催の理事会に諮りました。
- 2026年 3月 奨学期間を修了する奨学生の修了式を開催しました。
- 2025年 6月 ~ 2026年 3月 事業計画及び収支予算策定、事業報告及び収支決算書の承認、その他財団運営に関する事項の同意並びに審議承認を得るため、対面の理事会及び評議員会を2025年6月および2026年3月に開催しました。その他決議が必要な項目について書面決議により承認を得ました。

2025年4月、新たに47名の第22期奨学生を迎え、認定証授与式を行いました。理事長からのご挨拶の後、一人ずつ自己紹介をして認定証を受け取りました。選考委員の先生方から、温かい歓迎と励ましの言葉をいただき、その後はみんな一緒になっての食事会。会が進むにつれみんな和気あいあいとなってきました。この日は全員初対面。これから、様々な国、様々なバックグラウンドを持つ学生同士、ぜひ友人をたくさん作ってくださいね！

理事長挨拶



上村 珠美氏

理事長の上村です。

挨拶に先立ちまして、この度、ミャンマーで発生した地震により大きな被害が出ております。被害にあわれた方々に対し、心からお見舞い申し上げます。

そして、一日も早い回復と被災地の早期復旧を心からお祈り申し上げます。奨学生の皆さん本日は大変おめでとうございます。当財団は、「アジア諸国の次代を担う若い世代の育成と交流」を目的として2003年に設立しました。2011年に公益財団法人への認定を受け、一昨年、設立20周年を迎えることができました。このたび、第22奨学生となる皆さんを迎え入れ、奨学生の人数は、今期の47名を加え767名になりました。推薦いただいた大学からは、優秀な学生のご応募をいただき、設立から今期まで21か国、68大学から奨学生を迎えることができました。皆さまは日々、勉学や研究に取り組み、様々な挑戦と発見に満ちあふれて

いることでしょうか。時には困難に直面するかもしれませんが、困難は成長の糧となります。そして、挑戦を恐れず、自分自身を信じて進んでください。皆様の未来には無限の可能性が広がっています。そして、当財団は皆様一人ひとりが持つ可能性を信じ、支援してまいります。どうか奨学生の皆さまには、これから受け取る奨学金を今後の研究や日本文化に親しむ等、有効にご活用いただき、意義のある日本留学を果たしていただければと思っております。そして、当財団は皆さま一人ひとりの成功を心から祈っています。学び、成長し、世界に新たな希望をもたらす皆さまの姿を楽しみにしています。本日はおめでとうございます。



理事長より認定証が授与されました



須貝選考委員長



滝川選考委員



西野選考委員



これから「同じ釜の飯を食べよう」ね！



これからよろしくね



一緒にご飯を食べればもう和気あいあい

奨学生代表謝辞



東京科学大学大学院

閻 焯琦 (エン ユウチ) さん

奨学生を代表してご挨拶を申し上げます。東京科学大学、精神行動医科学の閻焯琦と申します。

本日は大変名誉ある奨学金を賜り、私たち奨学生一同、皆様のご厚意をありがたく受け止めております。

私たちはそれぞれが夢を抱き、学びを深めている真っ最中です。時には悩んだり壁にぶつかることもありますが、皆様からいただいた経済的、精神的なサポートは、挑戦し続ける勇気となっています。一人ひとり違う道を進みつつも、“支援を活かして社会に貢献したい”という思いは共通しています。

私自身は、精神医学を専攻しており、この奨学金により国内外の学会参加や他分野との連携が可能になります。幼いころ、身近な家族が精神疾患を患ったことがあり、当時の無力感や理解の難しさが、精神医学を学びたいと思う原点となりました。現在は、双極性障害とうつ病など、社会的にも関心が高い精神疾患を対象に、脳機能の解明と新たな診断法に携わっております。

私たちの前を歩んでこられた先駆者の方々、ならびにその歩みを支えられた皆さまのおかげで、多様性と共生を重んじる現在の社会があります。そして今、AIの急速な進展により、私たちは社会のあり方や人と人との関係までが問い直される、大きな転換期です。こうした時代に、私たち奨学生を支援して下さることは、分断が進みながらも互いに助け合わなければならない、未来を切り開こうとする人々への心強い励ましとなります。

改めまして、本日ご列席いただきました皆様、そして支援して下さる全ての方々に、深く感謝申し上げます。



国会議事堂見学 (2025.5.20 国会議事堂)

新入の奨学生にとっては最初のイベント、恒例の国会議事堂見学を行いました。今回は参議院議場です。21期生4名、22期生31名、上級奨学生1名が参加しました。国会議事堂の見学コースは小学生から大人まで、とても人気です。列を作り長い廊下を歩きながら、天皇陛下専用のお部屋を見たり、中庭の池を見たり、そして本会議場を通り抜け、庭に出てぐると一周して終了。堪能してもらえたかな？



議事堂見学はとても人気があるんです



床もきれい、でもちょっと歴史を感じる



庭を散策



テレビでよく見る風景です！



天井もきれい



歌舞伎鑑賞教室 (2025.6.20 サンパール荒川)

恒例の歌舞伎鑑賞教室に行きました。参加は21期生12名、22期生31名です。海外の方にもわかりやすい歌舞伎の解説の後、お芝居へと続きます。今回の演目は忠臣蔵の外伝「土屋主税」。忠義、仇討ち、切腹などなど、とっても日本人的なストーリー展開です。日本の文化の一端を感じてもらえたかな。



今年の演目です



財団のグループ以外にもたくさんの方がいらしていました



始まる前は入念に下調べ



歌舞伎幕は「黒、萌葱色、柿色」の3色です

交流会 (2025.7.4 日本工業倶楽部会館)

毎年7月に行う交流会は、財団役員、現役奨学生から修了生まで財団関係者が集う、一大イベントです。今年は役員9名、修了生15名を含め、全部で75名の参加がありました。上村理事長のご挨拶に続き、久保田理事の音頭での乾杯。そして今年度第2期上級奨学生4名の認定証授与が行われました。その後は食事を楽しみながら、修了生代表、奨学生代表、役員からのスピーチがあり、合間合間にみんなそれぞれに会話を楽しみました。奨学生、修了生同士はもちろんですが、役員・選考委員の方々と間近にお話できるのも交流会の醍醐味。夏の楽しい思い出になってもらえたでしょうか。

交流会奨学生代表スピーチ《日本の文化などについて感じること》



張 原誠 (チョウ ゲンセイ) さん

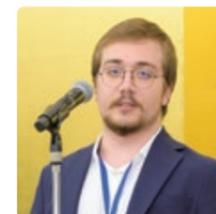
順天堂大学大学院
(21期生・中国)

皆様、こんにちは。

順天堂大学大学院医学研究科から参りました、張原誠と申します。

現在私は、アフリカにおける熱帯熱マラリアの薬剤耐性機序の解明をテーマに研究を進めております。特に注目しているのは、kelch13遺伝子の変異がアルテミシニン耐性に与える影響についてです。興味深いことに、同じkelch13変異でも地域によって耐性の程度が異なることが知られており、その背景にある要因を明らかにすることが、本研究の目的です。そのために、私はCRISPR-Cas9を用いて、アルテミシニン耐性関連変異(C469YおよびA675V)を複数の異なる原虫株に導入し、それぞれの遺伝的バックグラウンドが耐性に与える影響を評価しています。変異導入後は、ring-stage survival assayにより感受性を定量的に測定し、

さらに、増殖速度や性転換能といった指標から、耐性変異が原虫の生存適応に与える影響についても包括的に解析しています。将来的には、こうした基礎研究の成果を臨床や国際的な感染症対策へと発展させ、人類の健康に貢献する研究者として、社会に役立つ知見を生み出したいと考えております。また、長谷川留学生奨学金プログラムを通じて、異なる専門分野の皆様と交流できたことは、私にとって非常に貴重な経験となりました。多様な視点に触れ、学問的な視野が大きく広がったと実感しております。さらに、この一年間、財団が主催してくださった交流活動にも多数参加させていただきました。書物やインターネットでは得られない、日本文化の奥深さや人々の温かさを、直接体験することができました。こうした体験は、私の日本への理解をより深いものにしてくれました。そして何より、奨学金のおかげで生活面の不安が軽減され、専門分野の学びに集中できる環境が整ったことに、心より感謝申し上げます。最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださった財団の皆様、深く御礼申し上げます。今後も日々研鑽を重ね、より良い研究成果を社会に還元できるよう努めてまいります。本日は誠にありがとうございました。



ユルマバシャル アルダ さん

芝浦工業大学
(22期生・トルコ)

My name is Arda Yilmabaşar, and I am currently studying mechanical engineering at the Shibaura Institute of Technology through the Innovative Global Program. Originally from Turkey, I have a deep interest in CNC machines and how they shape the future of manufacturing.

contribute to a more livable world for all. I approach engineering not just as a field of study, but as a mission. I aim to establish my own manufacturing company in Japan, where I can both innovate and give back to society through charitable activities. Additionally, I conduct research on feed drive systems, aiming to innovate in this field and contribute to the advancement of precision manufacturing.

I am truly grateful to the Hasegawa International Scholarship Foundation for their generous support, which enables me to pursue these goals with confidence and determination.

Motivated by a desire to constantly improve and

奨学生 OB・OG 挨拶



黄 溢哲 (コウ イツテツ) さん
(19期生・中国)

皆さま、こんにちは。第19期生の黄 溢哲と申します。
私は中国出身で、青山学院大学で歴史学を学び、学士課程と修士課程を修了し、現在は新聞社で記者として働いています。
3年前より、長谷川留学生奨学財団の奨学金をいただきました。おかげさまで、学生生活の中で金銭面に困ることは一度もなく、学業や研究に集中できる大変恵まれた環境を与えていただきました。この場を借りて、財団の皆さまに心より感謝申し上げます。
現在は新聞記者として日々研修を重ねながら、記事執筆の力を少しずつ身につけているところです。歴史学の出身でありながら、ニュースという最前線の現場に立つことで、これまでとはまた違った視点やスキルを学んでいます。
最初は、あらゆる分野の記事を読み、幅広い情報を収集・整理するところから始まりました。毎日が新鮮で、刺激に満ちています。
社会人になって特に実感しているのが、時間を守ることの大切さです。新聞というメディアは時効性が非常に重視されるため、決められた締切に間に合うように、限られた時間の中で効率的に原稿を仕上げる力が求められます。
優先順位を見極め、スピードと質の両立を意識することは、私が今もっとも大切にしている姿勢です。
今後はOBとして、奨学生の後輩の皆さんに、仕事のやりがいや社会人として大切にしていることなどを少しでもお伝えできればと考えています。
このような貴重な機会をいただき、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。



上村理事長よりご挨拶



上級奨学生の認定証を授与しました



久保田理事の首頭で乾杯



盛り上がってる？



先生とも仲間



先生を囲んで



役員の先生とも仲間



役員とじっくり話せる場です



お寿司の前で「にこっ」



みんな仲間

財団では毎年秋に、日本文化を体験する遠足を催しています。今年は提灯の絵付けと柴又散策を行いました。
 午前中は浅草のアトリエにて、インストラクターの指導の下で提灯の絵付けをしました。みんな真剣そのもの。出来上がった提灯は、LEDろうそくを入れて使ってみてね。
 お昼は焼き鳥と鰻が有名な老舗の和食屋さんです。
 午後は柴又散策。柴又帝釈天は日本の古い映画「男はつらいよ」で有名ですが、実は庭園と彫刻(レリーフ)も見ごたえがあるのですよ。



絵筆を持つ姿は真剣そのもの



こちらも真剣



できました!



こちらもできました!



さあ、ランチです!



乾杯! (中身は水だけど)



古民家でまったり



柴又帝釈天にて



帝釈天の日本庭園



見事なレリーフ!



財団設立の理念を育んだ長谷川香料。今回は川崎にある総合研究所の見学を行いました。21期生10名、22期生28名、上級奨学生3名の総勢41名が集まり、香料会社について学びました。

香料って何？匂いって目に見えるの？最初は疑問ばかりでしたが、まずわかりやすい講義を聞いて、なんとなく納得。さらに、いろいろな匂いを匂い紙につけて嗅いだり、香りを添加した水溶液を味わったり、匂いの不思議を体験できました。

その後は4班に分かれて研究所内の見学ツアー。整備された見学コース、丁寧な説明もいただけて、香料の開発について少しでもイメージができたのでは？



秋の空の下、総合研究所です



香りについて講義を聞きます



匂いって何？



香りをつけただけなのに味を感じる!?



見学コースは廊下側から



質疑応答は活発でした



大相撲初場所観戦を開催しました。参加者は21期生8名、22期生27名、上級奨学生2名の計37名です。今回の席は正面側！取り組みも、幕内土俵入りも、横綱2人の土俵入りもたっぷり見る事ができました。



今日も櫓太鼓が響きます



国技館の中にある豊国稲荷と出世稲荷。勝利祈願のためにお参りしましょうか



お茶屋さん通り。国技館ぼい！



横綱土俵入り



観戦！



2025年度 第21回修了式を行いました。

2025年度は21期生23名、22期生15名、第1期上級奨学生2名、第2期上級奨学生3名が修了となりました。

一人ひとりのスピーチでは将来の抱負を語り、会の途中からは役員の席に詰めかけて御礼のご挨拶に花を咲かせる、とても素敵な修了式でした。これからも皆さん、頑張ってくださいね。

奨学生代表謝辞



東京藝術大学大学院

黄 璟 (コウケイ) さん

東京藝術大学の黄 璟と申します。本日は素晴らしい修了式を開催していただき、誠にありがとうございます。理事長様をはじめ、財団の皆様へ、修了生を代表し心より厚く御礼申し上げます。

財団からの多大なるご支援は、経済面にとどまらず、私たちの研究に不可欠な「精神的なゆとり」を与えてくださいました。おかげさまで、私たちは生活の不安なく、自身の目標へ

全力を注ぐことができました。

また、財団の行事を通じて、国会議事堂の見学や川越での狐のお面の絵付けなど、日本の伝統文化を共に体験したことや、長谷川香料様の研究所を見学したことは、かけがえのない財産です。特に、ライムやレモン、シナモンといった異なる香りを掛け合わせると「コーラ」の香りが生まれる体験には大変驚かされました。これは国籍も専門も異なる奨学生の交流そのものです。多様な個性を掛け合わせ、新しい価値を生み出す素晴らしさを教えてくれました。

一人の美術教育者として、研究所で取組まれている「香りと色彩の結びつき」のご研究から大きなインスピレーションをいただいたように、ここにいる奨学生一人ひとりが、こうした出会いを通じて視野を広げ、今後の人生の大きな糧を得たことと思います。

財団の理念である「アジア協調」の精神を胸に、私たちはこれからも世界をつなぐ「心の架け橋」となれるよう精進し、いただいたご恩を社会への貢献としてお返ししてまいります。

最後になりましたが、長谷川留学生奨学財団ならびに長谷川香料株式会社のますますのご発展と、皆様のご健勝をお祈り申し上げ、修了生を代表しての挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。



役員の前でのスピーチも、慣れたものです



役員を取り囲んでお礼参り



須貝理事からの奨学生の皆さんに向けてご挨拶



北原理事の熱い激励と乾杯

修了式挨拶



上村 珠美氏

理事長

皆様、本日はお忙しい中、修了式にお越しいただき、ありがとうございます。こうして皆様と一緒にこの大切な日を迎えられましたことを、心からうれしく思います。

今回で21回目となる修了式を無事に迎えることができました。役員の皆様をはじめ、日頃より温かく支えてくださって

いる多くの方々のお力添えによるものです。長年にわたるご支援に、深く感謝申し上げます。

今年度は43名の修了生が、新しい一步を踏み出します。これまでの修了生と合わせると、当財団から巣立った仲間は730名を超えました。皆さんがそれぞれの場所で努力を重ね、社会で活躍されている姿は、私たちにとって大きな励みです。修了生の皆さん。今日という日は、これまでの努力が実を結んだ大切な日です。学びの中で得た知識や経験、仲間と支え合いながら過ごした時間、悩みながらも前へ進んだ日々は、これからの人生を支える大きな力になることでしょう。

どうか、これからも自分を信じて歩いてください。思うようにいかない時もあるかもしれませんが、そんな時は、今日ここにいる仲間や、これまで皆さんを支えてきた人たちの存在を思い出してください。多くの人が、いつも皆さんのことを応援しています。

そして、日本とアジアをつなぐ架け橋として、よりよい未来をつくっていかれることを心から期待しています。

本日は、修了おめでとうございます。皆さんのこれからの日々が、明るく実りあるものとなりますよう、心よりお祈り申し上げます。



第 21 回 修了式 (2026.3.6 日本工業倶楽部会館)



役員を取り囲んでお礼参り



一人一人のスピーチ、
みんな真剣に聞いています。

乾杯の後は、やっぱりご飯

修了してもよろしくね



修了してもよろしくね

修了式に出席された皆さん



公益財団法人 長谷川留学生奨学財団のご案内

設立趣旨

本財団は、東京都内の大学に在籍し、都内に住所を有するアジアからの留学生に対し奨学金援助を行い、より充実した勉学・研究を継続させることにより国際社会の発展に寄与することを目的とします。

財団の本部

東京都中央区日本橋本町3-3-6 ワカ末ビル7階
 Hasegawa International Scholarship Foundation
 電話 03-5205-7551
<http://www.hasegawa-zaidan.or.jp/>
 E-mail : office@hasegawa-zaidan.or.jp

財団の規模

本財団は、以下の資産によって運営されています。

設立・2003年10月
 基本財産・現金2億円
 債券3億円
 長谷川香料株式会社 株式 2,000,000 株
 株式会社長谷川藤太郎商店 株式 121,900 株

行政庁

東京都知事

奨学制度の概要

資格	アジア各国からの留学生（国費留学生は除く） 都内に本部を持つ大学・大学院に在籍し、学長もしくは学部長の推薦を得た者 東京都内に居住する者
年齢	問わない
専攻分野	問わない
募集人数	50名程度（2025年度実績）
奨学金	大学学部生 月額100,000円 大学院修士課程生 月額120,000円 大学院博士課程生 月額150,000円
支給期間	標準修業年限内で最長2年間（途中進学した場合も継続可）
選考	①推薦内容審査 選考委員会による推薦内容の書類審査 ②面接審査 選考委員会による面接審査（勉学への意欲など、人物中心） ※対象大学へは当財団から募集案内を送付します。
給付終了後	上級奨学金制度に申し込むことができます。 本奨学生を修了し、その後も大学院博士課程に在籍し、より高度な研究を継続する方に対して奨学金を給付いたします。詳細は当財団にお問い合わせください。

奨学生状況

■ 年度別奨学生数

2004年度 第1期生	17人
2005年度 第2期生	18人
2006年度 第3期生	19人
2007年度 第4期生	23人
2008年度 第5期生	35人
2009年度 第6期生	30人
2010年度 第7期生	35人
2011年度 第8期生	38人
2012年度 第9期生	28人
2013年度 第10期生	35人
2014年度 第11期生	32人
2015年度 第12期生	38人
2016年度 第13期生	38人
2017年度 第14期生	42人
2018年度 第15期生	40人
2019年度 第16期生	30人
2020年度 第17期生	34人
2021年度 第18期生	43人
2022年度 第19期生	50人
2023年度 第20期生	53人
2024年度 第21期生	42人
2025年度 第22期生	47人
合計	767人

■ 国別累計奨学生数

中国	500人
韓国	141人
ベトナム	32人
台湾	25人
マレーシア	12人
ネパール	7人
インドネシア	8人
香港	6人
ミャンマー	7人
バングラデシュ	6人
カンボジア	4人
タイ	4人
スリランカ	4人
トルコ	3人
サウジアラビア	2人
レバノン	1人
イラン	1人
モンゴル	1人
フィリピン	1人
ラオス	1人
インド	1人
合計	767人

■ 年度別上級奨学生数

2024年度 第1期上級奨学生	2人
2025年度 第2期上級奨学生	4人
合計	6人

■ 国別累計上級奨学生数

中国	5人
韓国	1人
合計	6人

2025年度 役員・評議員・選考委員

理事長	上村 珠美	株式会社長谷川藤太郎商店 代表取締役社長
常務理事	黒林 淑子	長谷川香料株式会社 非常勤参与
理事	石川 博一	公益財団法人 三越厚生事業団 理事長
理事	岡田 明重	株式会社三井住友銀行 名誉顧問
理事	北原 武	東京大学 名誉教授、北里大学 客員教授
理事	久保田 紀久枝	お茶の水女子大学 名誉教授
理事	倉地 正	兼松株式会社 名誉顧問
理事	須貝 威	慶應義塾大学 名誉教授
理事	前島 信	慶應義塾大学 名誉教授
監事	内山 裕	税理士
監事	松岡 章夫	税理士
評議員	上原 靖弘	公益財団法人 三井住友銀行国際協力財団 評議員
評議員	海野 隆雄	長谷川香料株式会社 代表取締役会長（CEO）
評議員	小栗 昭一郎	前 長谷川香料株式会社 社外取締役
評議員	河野 勝	早稲田大学 教授
評議員	鈴木 啓介	東京科学大学 特命教授
評議員	碓合 憲三	東京理科大学 名誉教授
評議員	吉川 淳	株式会社良品計画 社外取締役、アセットマネジメント One 株式会社 取締役
選考委員長	須貝 威	慶應義塾大学 名誉教授
選考委員	川崎 常臣	東京理科大学 教授
選考委員	滝川 浩郷	東京大学 教授
選考委員	永瀬 伸子	大妻女子大学 教授、お茶の水女子大学 名誉教授
選考委員	西野 理子	東洋大学 教授



らんびき

16世紀の半ば、日本に蒸留酒が伝えられた。当初は、スペイン、ポルトガル人が南蛮医学を施すに当たり、創傷面の洗浄に使用していた。やがて高級舶来酒として焼酎が富裕家庭に入り込み、南蛮料理に添えて振る舞われたり、茶席で客の前で蒸留されて珍しがられた。1697年（元禄10年）に刊行された「本朝食鑑」に、蒸留器が「羅牟比岐」と呼ばれて、「モト南蛮ノ器ニシテ、ヒドロヲモツテ亦之ヲ造ル」と紹介されている。ポルトガル語の“alambique”の転訛というのが定説。らんびきは、江戸期に製薬や植物製油の蒸留にも活用された。長谷川香料株式会社の創業者・長谷川藤太郎はらんびきを図案化し、トレードマークを制定した。